

岩手郡医報

昭和56年7月-No.3-

編集／発行

岩手郡医師会



蒼前神社

チャグチャグ馬コの由来

これは、国指定の文化財、チャグチャグ馬コの出発地点、滝沢村鶴飼の蒼前神社の写真である。「蒼前」とは、昔、馬の名医で、のち、馬の守り神となった人の名前であると伝えられている。

馬は昔から、最近まで、重要な軍事力であり、また輸送機関、農耕用具でもあった。

故に、馬の育成は、藩や国の存亡に関わる大事であった。

南部藩祖は、甲斐の牧場の長官であった人で、

馬産には特に力を注ぎ、農民は、曲り屋で馬と同居する程、愛馬精神に徹したので、南部藩は国内第一の馬産地となり、中でも滝沢村は、居城に近く、岩手山麓の広い牧野があり、藩内一の南部馬の育成地となった。

馬は農家の収入源でもあったので、農家では馬の無病息災を祈り、端午の節句の日、馬を盛装し、蒼前神社を参拝させたのが、チャグチャグ馬コの始りと伝えられている。

(高橋牧之介)

行事関係報告

1 県医師会関係

A) 救急医療情報システムに関する協議会、5月28日午後2時30分より県医師会館に於て開催

せらる。出席者は県より中館環境保健部長、医薬課長、同補佐、県消防協会の岩野会長、県医師会より加藤、田島両常任理事、各都市医師会より担当委員1名宛、但し盛岡市医師会は3名出席す。

救急医療情報システムについてはかねてより県医師会が県当局に要望して居りましたが、県に於て之が設置を決定予算化されて、昭和57年3月1日より開始の予定です。之は救急告示医療機関の外公的病院に設置を予定して居るが、其の外小児科、産科、脳疾患専門の特殊診療所の一科用データー装置の設置については、6～7月中に都市医師会に於て協議せられたいとのことです。

(イ) 各地区病院群輪番制について

これは当郡管内は盛岡地区に入って居ります。

(ウ) 救急車の利用問題について

各地区より色々の意見が出ました。

当医師会管内の安代町の救急患者で鹿角市の病院を適当或は希望する際は秋田県と諒解済とのことです。

B) 新点数説明会

5月29日午後開催高橋牧之介先生出席。

C) 県医理事会

6月16日午後2時30分於医師会館

(イ) 報告事項

(1) 東北医師連合会理事代表者合同会議

(2) 県との懇談会について

(i) 県提出事項

- (a) 岩手県地域保健医療計画について
- (b) 救急医療情報システムについて
(本年度中完成予定)

(ii) 県医師会提出事項

- (a) 県立病院の移転新築について
- (b) 救急医療補助金制度について
盛岡市医師会より要望書を出しあり
- (c) 県民健康教育センター補助金について
- (d) 県民健康教育講座について
- (e) 心腎検診対策について

(ロ) 協議事項

- (a) 県医総会及春季医学会について
- (b) 昭和55年度県医師会才入才出決算について
- (c) 昭和55年度グループ保険の才入才出決算について
- (d) 昭和56年度グループ保険の才入才出予算について

- (e) 昭和56年度県医師会才入才出第一次更正予算について

- (f) 昭和55年度岩医厚生株式会社の決算について

- (g) 救急医療情報システムについて

2 郡医師会関係

A) 海釣大会の開催準備について

5月24日準備のため宮杜副会長及事務職員

釜石市に出張す。

B) 新点数説明会について

5月31日午後5時より玉山中央公民館に於て開催す。

講 師 高橋牧之介先生

準備担当 秋浜 晃先生

明6月1日より実施せらる、新点数なるため会員、事務職員約100名出席す。

講師の説明微に細に亘ってなされ、且質問にも充分時間をとりたるため、一同明日の実施に意を強くして散会す。

会員一同に代り講師の高橋先生並に準備万端を担当された秋浜先生御夫妻に深甚なる謝意を表します。

追伸

他の説明会に出席なされる方はその旨連絡して下されば待たずに若干早く開始得たと思われます。御留意願い度

C) 救急医療情報システムの説明会は関係医療機関に対し6月25日西根町に於て開催予定

D) 其 の 他

(i) 新薬価基準点数早見表並に診療報酬点数表を全会員に無料交付す。

(ii) 扁平足調査に關し各町村教育長、各学校長に協力方依頼文書発送す。

(iii) 6月28日の県医師会総会に於ける表彰該当者なし

(iv) 昭和55年度の叙勲

(v) 各支部に対し下記の通り休祭日当番医補助金を、研修費及健康教育費として送金す。

1 支部	坂井先生	216,000
------	------	---------

2 支部	土谷先生	249,000
------	------	---------

3 支部	長谷川先生	34,000
------	-------	--------

(vi) 昭和55年休祭日当番医制事業補助金に係る報告書を提出す。

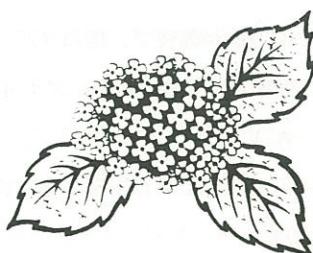
保険問題協議会より

5月19日 岩手医師会館に於て、本年第1回の保険問題協議会が開催された。

金野理事より、岩手県医師会と岩手県農業協同組合役職員連盟が診療契約締結した旨報告あり。

(契約内容については、いわて医報№362をごら

ん下さい) その後、保険診療に於ける事務処理診療上の疑義事項について協議したが、その内容は、いわて医報№362に記述されているので熟読願います。



扁平足測定について

扁平足判定にあたって、足痕をとる足圧痕法（足プリント法）は、足蹠の形態を知るに、最も簡便な方法であり、広く用いられ、学校検診などにもよく用いられる方法である。

しかし、これが足のアーチの変化を忠実に表現するかというと、必ずしもそうではない。

扁平足は、アーチの低下した状態であり、その高低をしらべるに、上下方向でなく、足痕の水平面に物差しをあてるわけだから、その方法自体矛盾している。

足プリントにおける“土ふまず”は、正常な足でも、その部の皮下脂肪量の多寡、短母指、外転筋短母指屈筋の筋腹の量によって変化するし、また足の外縁輪廓の前部が後部に対して外方に偏位することは扁平足とは全く逆の凹足や、開張傾向にある足に於てもみられるから、これらは外反扁平足の絶対的特徴とは言い難い。

この様に足プリント法は、不確定要素を多く含んだものであるから、その結果を以て、直ちに扁平足云々と決論を出す事は適当ではないが、その目的と意義をわきまえ、必要に応じ、X一線検査などを併用するならば、その簡便さの点に於て応用範囲は広いと思われる。

足プリントの判定基準として、種々発表されているが、次の方法が簡便で、慣用されている。

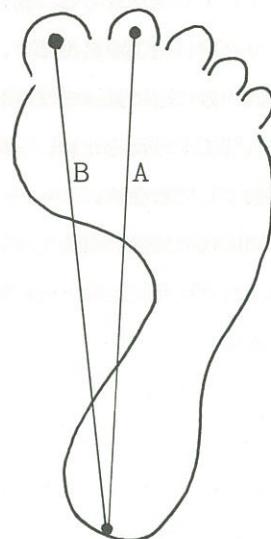
1) 跡部の後縁の中央点と第二指圧痕の中点を結ぶ線（A）

2) 跡部の後縁の中央点と第一指圧痕の中点を結ぶ線（B）

を引き“土ふまず”が（A）に達しているものは

長谷川 貫一

正常（A）と（B）の間のものを（+）。（B）に達していないものを（++）とする。



扁平足について、文献を色々漁いてみたのですが、あまりなく、結局、この程度の結論だけしか出ませんでした。

この程度の規準で測定してもよいのではないかと思います。

中心点の出し方は、厳密には可成詳細な記載はありますがあが、それらは研究的なもので、実際にはそこまでは必要がない様に思われます。

従って、踵部や足痕の中点は各自に決定しても検診上、大した誤差はないものと思います。

鳴呼あの頃（その二）

上野精三

〔口〕現役兵として入隊の頃

昭和7年5月の徴兵検査に於て、親の甲斐生無い為か、又役場の親切が足りないのか、不幸にして甲種合格の烙印を押され、以来約5ヶ月間いろいろの事を考えつゝ（無論最大の重要事項は結婚問題）暮して居った処、11月初旬盛岡駐隊区司令官より1通の封書、然も配達証明付が配達された。内容は徴兵検査に合格し、陸軍衛生部幹部候補生を志願されたので、金200円を11月30日迄に日本銀行又は所在の支店、代理店に納付の上、その受領書を速やかに本職宛送付すべし、との甚だ厳しい内容のものでした。

これには200円を納付しないと翌年1月10日初年兵として入隊せねばならないと云ういわく付の問題がからんで居た。又、実情はどうであれ、表向きは志願をしたのであるから、1ヶ月20円の食費とも考えられるのであった。当時の下宿料は盛岡で、1ヶ月、中等学校生徒は15円、高農の学生は20円、医專の学生は25円ぐらいであった。とにかく急いで納付の上、その受領証を聯隊区司令官宛送った。

次いで、翌昭和8年1月初旬再度盛岡聯隊区司令官より配達証明付の厳しい封書が配達せられて運命もこゝまでとおそるおそる開封すれば下記（当時は従書のため左記）の通り記載しあり。

記

1. 陸軍衛生部幹部候補生として採用決定せらる。
2. 昭和8年2月1日午前8時弘前歩兵第31聯隊に入隊すべし。

3. 入隊に当り次の事項に注意すべし

(i) 1月31日弘前に到着し、土○町竹○旅館に宿泊すべし。（竹○旅館は当時弘前一番の高級旅館にして一泊二食付1円50銭なりき）

〔口〕携行品について

(j) 小包用油紙2枚、古新聞紙4枚、荷札4枚（宛先を記載のこと）小包用紐約5米

〔口〕当座の洗面道具

〔口〕筆記具として鉛筆若干

〔口〕当座の小遣い銭（金額の記載なし）

注 2月1日午前7時聯隊より竹○旅館に下士官を派遣せらる、に付、その指示に従うべし。尚、当日戸籍謄本1通持參のこと。

いよいよ来るべきも来た感じで、まさに逮捕令状に匹敵すべきものであった。

こゝまでくれば充分腹も出来、何もよくよすることなしの心境でした。

1月30日、長年かゝって伸した髪を3分刈とし用意万端整えて、1月31日早朝郷里を出発すべく準備完了。1月29日夜から1月30日に亘り郷里の習慣として立振舞の酒盛りあり。来る方は皆餓別として慰み袋に1円の紙幣を入れて激励に来られるが、入り代り立ち代りのため1人10~15分で交代するので、この接待を担当された親戚、隣近所の女の方々の労苦は思いの外のようであった。1月31日早朝白地に祝入營〇〇〇〇〇と書かれた布片を肩にかけ在郷軍人、学童、その他多数の人々に見送られ、零石駅より地方人としての最後の橋

場線のマッチ箱列車に乗り込み、盛岡駅乗換、次いで青森駅乗換、奥羽線にて雪の弘前駅に午後2時30分頃到着。同時刻、奥羽線の上り下りが弘前駅交換のため、私同様逮捕され、洗面道具を片手にぶらさげた若者を散見す。やがて、土○町竹○旅館の玄関に12名が到着（内訳、軍医の候補生11人、薬剤官の候補生1名）旅館は例年のことと万事準備怠りなし。

小生等は、まだ玄関の土間でまごまごして居るトマダムらしき40才位の方が出て次のことを知らせられる。但し、一行12名は弘前語不馴れのため少々とまどいたるも内容は次の如き様なり。

皆さん、御苦労様。今日は地方人として最後の日だから客馬櫈を2台用意してある故、2組に別れて弘前市内を見物しておいでとのことなり。

仍って1組6人づゝ2ヶ班に分れ、斤候となり第1班は北○町方面の偵察。第2班は新○地方面の捜索に隠密裡に出動。現在地帰還は午後5時30分とのマダムの命令なり。北○町方面も、新○地方面も県医師会長佐々木一夫先生は殊の外熟知の筈。やはり偵察捜索とも後日の兵役生活には殊の外益する処多し。1班も2班も竹○旅館のマダムの命令を厳守の上宿舎に到着。3人1室で婆の最後の夜を過す設営を完了す。一同大広間に酒、ビール付の夕食となり先づ自己紹介から。そして若い旅館の女中さん方の樂しかるべきお酌も一同津

軽語がわからぬためなんなく白けて夜11時床にもぐる結果となつた。

翌朝大広間で朝食の際、山形県出身のK氏（昭和14年8月中華民国山西省府城鎮附近の戦斗にて名誉の戦死。同期の戦死第1号）が突然発言し、あゝ皆さん本日よりいくら不平不満があつても10ヶ月は捕われの身なんだから自分自身で出来る丈のことをして、楽しい10ヶ月を過ごそうではないか。皆の衆「賛成賛成」と唱えているとき若い女中さんがたふた駆け足で階段を昇り、声高らかに31聯隊より迎いの方が参りましたとのこと。

一同洋服に着換え、洗面袋と小包用諸道具の入った小さな風呂敷を持って玄関に集合したら、「陸軍歩兵軍曹一兜三六、候補生の迎いに参りました」とのこと。世にも勇ましい名前があったものと語り乍ら、一兜軍曹に連行され恰も博徒が一網打尽警察官に連行される如く午前7年50分営門着地方人と10ヶ月の別れをつけ帝国陸軍軍人となつたのであった。只、竹○旅館の玄関で見送りに出た若いきれいな女中さんの「休みの日には豆腐汁と焼き魚で白い御飯を食べにいらっしゃい」の一言が最後まで耳に残つた。

次回は昭和8年2月1日後の色々の想い出を一期、二期、小隊長試験、中隊長試験、大隊長要員試験、三期後に陸軍病院に派遣（こゝは陸軍軍人地方人と呼ぶ方が適切ならん）とわけて書きます。

趣味漫筆（その三）

近藤純造

このコニカI型はシンクロ接点不良で大分閉口したがその他は申し分なく当時の愛機M1だったが、このカメラも後年亡弟に貸したのが運の尽きで火事に逢いその数年に亘る短かい生涯を閉じることになる。この頃広島医専卒のインターナンマガの2人の青年が一時期いっしょに暮していたが

この連中は性格はとてもよく広島弁丸出しの好青年であったが、こと医学に関しては全くの無知でドイツ語も満足に読めない始末で、これでも医者の卵かと首をかしげることもあったが、この2人に当時流行の豆カメラであるスナッピーとステキーを買ってやったことを覚えている。今このカメ

ラ類も豆カメコレクターにとっては垂涎の的である。昭和26年山田病院転勤となつたがこの頃になるとキャノンⅢ、ⅢA更にⅣ型などの高級機やニコンもI型からM型、S型とすばらしいカメラを出しておる、又ライカコピーのニッカ、レオタックスなどのカメラが市場に姿をみせていた。しかし、これらの高級フーカル機は当時としては高給取りであった我々でも一寸手が出ず、無念さをかくし切れないでいたが、名機キャノン4Sb(F1.5付85,000円)の普及型として45,000円のキャノンⅡDが発売されたので約1月分の月給をこれに向け手に入れた時の感激を今でも忘ることが出来ない。このキャノンⅡDはその後私の最大の愛機として活躍現在も尚健在で現役をつとめている。昭和25年朝鮮戦争を契機としてカメラ産業も空前の発展をとげニコン、キャノンをはじめニッカ、レオタックス、ミノルタなどの高級フーカル機からレンズシャッター付35mm機、スプリングカメラ二眼レフなど大小有名無名の会社から新型が相次いで発売され過当競争がはげしくなり、年を経るに従って次第に淘汰され弱小メーカーは相次いで倒産する運命をたどることになるのである。山田病院でも私のカメラ熱が伝播して職員の間でもカメラを所有するものが多くなり当時爆發的な人気を博したリコレクⅢ型を真似た二眼レフやスプリングカメラなどが流行し山田町でもカメラクラブなどが出来て仲々楽しい時代であった。昭和29年から郷里に帰り葛巻で開業することになったが、しばらくの間は現在県立公園となっている平庭高原の紹介などでカメラを手にして歩き廻り、カメラもあれこれと取替え引替え数多く使ったが印象にのこっているカメラとしてはミノルタフレックスⅢ型、アイレスレフZ型、それに昭和24年のカメラであるが、ミノルタメモなどがある。このミノルタメモなどは8,900円という大衆的な価格でしかも漸新的なスタイルでプラスチック多用のボディーにライカM-3に先がけてレバー巻き上げを採用新機軸をうたつたカメラであったが現在は市場にその数が極めて少なくコレクター間でも珍品とされており現在では75,000円~

95,000円という高値をつけられており珍品カメラのひとつである。このカメラもいつの間にかどこかに紛失してしまい全く残念に思つてゐる次第である。

この頃になると高級フーカル機の衰退、一眼レフの台頭とカメラ界にも幾多の変遷があったが昭和35年頃になると露出計内蔵のカメラから自動露出カメラ所謂バカジョンカメラのはじが出、又その後昭和36.37年頃からcds受光素子への転換がはじまり38年頃からTTL1眼レフ時代の幕開けがはじまり、私のカメラへの関心も急速に衰えていった。そして主なカメラでは昭和39年にアサヒペンタックスSPを求めたのが最後で、安カメラは10台程買ったが気に入ったものもなく、大半は手離してしまい、永いブランクが続くことになり、従つてこの期間のカメラに関する知識は誠に貧弱であり目下猛勉中である。

先日所用で上京する機会があり、新宿、銀座、高輪などの中古カメラを取り扱っているカメラ店を片っぱしからのぞいてきたが、今まで名前だけは知っていたが現物を見るのははじめてといったカメラ類も多々あり、この上ない目の保養をしてきたが、昔我々が安カメラとして歯牙にもかけなかつた弱小カメラメーカーのカメラが稀少価値のせいか馬鹿値で取引きされているのは全く皮肉なものである。

100万円もあれば海外の興味あるカメラも可成りの数揃えることが出来るのであるが何しろ思うに任せらずライカM-3の安物があったのでそれを求め、佐藤院長には我が国産カメラ中最高の名機として名高いニコンSPを求めて上げたが、流石に今のカメラではみられない風格があり念願の恋人を手にされた院長の喜び様も又格別のようである。私もいつかは必ずこのニコンSPをとひそかに心にきめている次第である。最後に現用の受機群を紹介すると、ライカM-3、キャノン4SbニコンS-2、ニコンS-3、キャノンⅡD、ローライコードVb、ミノルタフレックスⅢ型、ペンタックスLX、ペンタックスS-P、ミノルタX-D、ライツミノルタCL、ミノルタCLE、

などである。この他、ニッカⅢ型、ニッカ3F、レオタックスTV、ミノルタ35Ⅱ、ミノルタ35Ⅲなどの他数多ある他のカメラ群も2~3を除いては健康体であり、いつでも用に立つ状態にあり使わないでしまっておくというのがカメラにとっては

好ましくないので毎日とりかえひっかえシャッターを切ったりシリコンクロスで磨いたりするのが私の日課のひとつとなっている。

「カメラの頃終り」

落 餓 鬼

往診の帰えり、同乗の看護婦、"先生チョット農協ストアーに寄ってけねエベが"

"何かの大売出しか? あまり長くかかると嫌だぞ"

"少しガサバルどもティッシュペーパー買うべと思って"

"何んだそのペーパーとやら"

"あら、先生知らねえのすか、お父ちゃんの用をしたとき使う亭主ペーパーだでは"

"うんだが。"

うちの看護婦の御亭主は電力会社に勤めています。俗に春三夏六秋一冬無しなどと云われている様ですが、どうも彼女、春一番の頃、ふぶきのはげしい頃気嫌が悪くなる。

"どうした何か心配ごとでもあるか"

"はい、云いにくいけどこの頃お父ちゃんが電気ばしらにばかりに上ってて私お面白くねエす"

"うんだが"

3時の一腹休みに、"あらら、又女の人が被害をこうむったと新聞にのってるぞ"

"ところでお前達おそわれたら何んとする"

"どうしたらよがすべ"

"云うこと聞くふりして男の急所を思い切りつかめ、そうすれば、男氣を失うぞ"

"そんだべが"

"うだども、つかむの竽すか、玉すか"

"玉だ"

"玉だばおらあおさえにぐいなや"

"うんだが。"

編 集 後 記

もう夏至を過ぎたというのに空はどんよりと低くたれ肌寒い日が続きます。

農家の方々は空を迎いでは、ぐちをこぼし、田んぼの苗をみては嘆息している。

今年も冷害なのだろうか。我が方も同様気分のすぐれない露空である。

会員の先生方はすでにお読みのことと思いまが、日本医师会雑誌5月1日号1,258頁には考えさせられます。

(M)

